

2016 年度 センター試験 世界史B (本試験) ワンポイント解説

| | | |
|-----|----|--|
| 第1問 | 問1 | オーソドックスな正誤判定問題だが、ロシアにおけるツァーリ(皇帝)の称号の使用については注意が必要である。最初に使用したのはイヴァン3世だが、正式に(対外的に)使用を開始したのは孫のイヴァン4世(雷帝)である。センター以後の入試に向けて、このポイントも同時に押さえておきたい。 |
| | 問3 | 文化史の問題は、センターで例年一定数が確実に出題されるので、苦手分野にはしてはいけない。『天路歷程』はピューリタン文学の代表者の1人であるバンヤンの作品。ベラスケスは17世紀のスペイン＝ハプスブルク家の宮廷画家として活躍した人物。なお、ホルバインについては、ここでの『エラスムス像』の他にもトマス＝モアやヘンリ8世の肖像画が有名であり、イギリスの宮廷画家となったことも押さえておくべきである。 |
| | 問4 | センターでは地図問題も一定数が必ず出題されるが、難易度は高くない問題がほとんどである。ここでは、サマルカンドの位置を求めているが、ソグディアナ(西トルキスタン)の代表的都市であり、アラル海に注ぐシル川・アム川の間、というイメージを持っていればすぐ特定できる。 |
| | 問9 | 文化史の事項の年代整序問題であるが、ランケは19世紀半ばに近代歴史学を確立したドイツの歴史家であり、「それは本来、いかにあったか」という言葉を残している。マキアヴェリはイタリア戦争で混迷を極めるイタリアを見て、その統一のために道徳や宗教と無関係な狡猾な君主を理想化する『君主論』を著した。したがって16世紀初めの人物と特定することは難しくない。またモリエールは、ルイ14世の下で性格喜劇を創始した人物なので、17世紀の人物。以上を総合すれば正答できる。 |
| 第2問 | 問1 | 兵馬俑は、旧課程では教科書に記載されなかった語句だが、新課程では大部分の教科書に記載されているので注意が必要。なお、2012年のセンター試験でも、「始皇帝の陵墓近くから、兵馬俑が発掘された」の文の正誤を判定させる問題が出題されている。 |
| | 問2 | 同職ギルドに参加できたのは親方のみなので、②を誤文と見抜くことは難しくないが、①のフランス革命でのギルドの廃止というポイントで迷う受験生もいたことだろう。だがセンター試験では2010年度でも、「フランス革命でギルドが廃止された」の文の正誤を判定させる問題が出題されており、押さえておくべきポイントといえる。なお、その同じ問題では「中国では、公行という商人組合に外国貿易を管理させた」の文の正誤判定も求めている。 |
| | 問3 | センター試験では久しぶりのグラフを用いる問題であり、意表を突かれた受験生も多かったのではないだろうか。この問題では、まず年代を特定することが重要である。aの七年戦争終結は、パリ条約＝1763年であり、bの東インド会社再建(コルベールによる)は、ルイ14世時代＝17世紀後半。その上で、オランダの船舶数(艦装された数)のピークは1720-1729なのでa＝誤、17世紀後半のフランスの船舶数はどう見てもイギリスの半分未満なのでb＝正だと判断すればよい。 |
| | 問4 | 年表の空欄を考える前に、「イギリスでの立憲王政の確立した時期」を特定しなければならない。これは一般的に考えて、王権に対する議会の優越を確立した権利の章典だと捉えるべきであろう。すると、この文書はウィリアム3世とメアリ2世の即位時の権利の宣言を、その直後に法文化したものであるから、bが該当すると見抜ける。 |
| 第3問 | 問9 | 人民公社は、毛沢東が第2次五か年計画の中で農業の集団化による生産力向上を狙って設置したものだが、逆に生産力の低迷を招いた。このため、文化大革命終了後に最高指導者となった鄧小平は、改革・開放路線を開始するとこれらを解体した。こうした流れから考えると、空欄cが該当すると判断できるだろう。 |
| | 問2 | ミスルは、初期のイスラーム勢力が設けた軍営都市であるが、同時にその代表例としてイラクのバスラを押さえておきたい。また、こうしたやや細かい語句として、イスラーム世界でワクフ(富裕層に課せられた寄進)やハディース(ムハンマドの言行に関する伝承)なども今後の受験に向けて整理しておこう。 |

| | | |
|-----|-----|---|
| | 問 5 | 中国側が関税自主権を喪失したのはアヘン戦争での敗北の結果である。そして、国民党を支持する民族資本家は、列国からの利権回収を望んでいたもので、②の内容はおそらく正文だと推測できる。一方、①は袁世凱政権の事項なので誤文。③は清朝の事項なので誤文。④は毛沢東時代の中華人民共和国の事項なので誤文。以上を総合し、消去法で攻めれば正答が可能である。 |
| | 問 6 | 太平洋安全保障条約 (ANZUS) は、冷戦の時代に合衆国が形成した反共軍事同盟なので①が正解。なお、こうした反共軍事同盟については、トルーマン時代に NATO 結成・日米安全保障条約の成立・ANZUS 成立、それ以降はアイゼンハワー時代、と整理しておくことが重要である。 |
| | 問 8 | アインシュタインの相対性理論は重要なので③を正文とすることは容易。ただし、他の文の誤りも特定できることが望ましい。飛行機の初飛行に成功したのはライト兄弟なので①は誤文。ダイナマイトの発明者はノーベルなので②も誤文。ガソリンエンジン (内燃機関) を発明したのはダイムラーなので④も誤文である。 |
| | 問 9 | aとcの年代の特定が重要である。まず、aの「NATO 軍によるセルビア空爆」は、東欧革命の後に起こったユーゴスラヴィア内戦の収束後に発生したコソヴォ問題での事件である (1999 年)。cの「イスラエルによるシナイ半島占領」は、第3次中東戦争 (1967 年) での事件。bは第二次世界大戦以前の事件なので、c→aが特定できれば正答できる。 |
| 第4問 | 問 3 | 戦後現代史の内容を含むが、ターリバーンが一時政権を掌握したのはアフガニスタンなので③は誤文。イラン＝イスラーム革命で倒されたのはパフレヴィー2世のパフレヴィー朝であるから④も誤文。なお、ウンマとは、ムハンマドがメディナに移住したヒジュラの結果生まれたムスリムの共同体のこと。よって①も誤文である。 |
| | 問 6 | メソアメリカ文明の中で、ユカタン半島で形成されたのはマヤ文明であり、アステカ文明はメキシコ高原で発生した。また、やや細かいが二十進法はマヤ文明独特のものである。ラテンアメリカの都市文明については、各々の所在地、ピラミッド型神殿 (メソアメリカ全般) やインカ帝国のキープ (結縄) など各々の特色、さらに米・小麦を栽培しなかったことや鉄器を製造しなかったことなど全体的な特色を、きちんと整理し押さえておきたい。なお、六十進法はメソポタミアのシュメール人の文明の特色なので、該当しないことがわかるだろう。 |